

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																						
キャットミュージックカレッジ専門学校	昭和63年3月30日	井原 延治	〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																						
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																						
学校法人大阪創都学園	昭和63年3月30日	鈴木 雅文	〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																						
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																					
文化・教養	文化・教養専門課程	ダンス学科ストリートダンス専攻	平成17年文部科学省告示第176号	-																					
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づきダンスに関し必要とされる技能を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。																								
認定年月日	平成26年 3月31日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習																				
2年	昼間	1728	384	64	1344																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
80人	54人	1人	3人	12人	15人																				
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																					
長期休み	■学年始め: 4月11日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■学年末: 3月21日		卒業・進級条件	前後期総合評価結果及び2/3以上の出席																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・家庭訪問及び保護者との情報共有		課外活動	■課外活動の種類 なし ■サークル活動: 無																					
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) ダンス・エンタテインメント業界 ■就職指導内容 ・企業研修/就活対策講座/業界企業合同説明会 ・CATチャレンジシステム/公開オーディション ■卒業生数 15 人 ■就職希望者数 14 人 ■就職者数 5 人 ■就職率 : 35.71 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 33.33 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他(民間検定等) (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 校内検定としてインストラクティング検定を実施		資格・検定名	種	受験者数	合格者数																
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
中途退学の現状	■中途退学者 6 名 平成29年4月1日時点において、在学者48名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者42名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ・経済的理由 ・別途進路へ進む為 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談を定期的に実施。個別のマッチング状況を確認。また、毎月の出席率管理を行い保護者とも連絡を取り支校を促すことで継続意欲を持たせる。		■中途率 12.5 %																						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																								
当該学科のホームページURL	ホームページにおいて公開(URL: <a href="http://www.cat.ac.jp/support/subject.html">http://www.cat.ac.jp/support/subject.html</a> )																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。  
②「就職」とは給料、資金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。  
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係			
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針			
教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。			
(2)教育課程編成委員会等の位置付け			
本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。			
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿			
平成30年3月31日現在			
名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	平成25年12月17日～平成30年3月31日(4年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	平成25年11月28日～平成30年3月31日(4年)	③
榊田 奨	フリー・トランジット・ワークス・ミュージック・ファクトリー	平成25年11月29日～平成30年3月31日(4年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	平成25年11月29日～平成30年3月31日(4年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	平成26年10月2日～平成30年3月31日(4年)	③
木川 洋	株式会社大阪フェルナンデス	平成25年12月4日～平成30年3月31日(4年)	③
白藤 浩史	ダンス学科 学科長		学校責任者
※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役員(1企業や関係施設の役員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役員			
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期			
年間2回の実施(9月、3月)			
(開催日時)			
第1回 平成29年10月4日			
第2回 平成30年2月23日			
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況			
※見:ダンサーの職業として、インストラクターのニーズは拡がっている。大人を対象としたスタジオでは、お客様に可愛がってもらえる個性や自身の世界観を持っていると有利と思う。平均的にレベルが高いよりも、一つ飛び出している物があつたほうが良いように思う。 活用状況:「プレイキング」や「ヒップホップ」という名称で、授業はジャンルの違いを持っている。学生個人の選択肢を増やし、その組み合わせでインストラクターを目指す工夫を行っている。一人ひとりがターゲットの置き方を考えていけるようにしていき、また、資格的なモノを狙えるような取り組みも進めていきたい。			
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針			
本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容			
*講師派遣における学内授業の実施 *特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣 *前後期試験の実施、作品・実習等における採点、出席等総合評価を行う。			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科目名	科目概要	連携企業等	
ストリートジャズ	塗装や部品交換等のピアノ修理の知識や技術を身につけていきます。塗装においては塗装セットを用いて外装の部分塗装の実習を、部品交換においては各パーツの取り替え作業をそれぞれ繰り返し行いそれぞれの技術を養います。	株式会社アドヒップ	
プレイキング	トップロック・アップロック(立ち技)からダウンロック(床技)までのプレイキングの基礎を学習します。	株式会社アドヒップ	
ヒップホップ	ヒップホップのノリ(リズム)とボディコントロール、ベーシックステップを90年代のものからニュージャックスイング・ミドルスクール・ニュースクールなどスタイル別・年代別に指導します。	株式会社アドヒップ	
ロッキング	ロッキングの基本となる技の習得がメインとなり、それらを使ったコンビネーション(振付)も行っていきます。ロッキングの特徴といえるメリハリを表現していきけるように心がけていきます。	株式会社アドヒップ	

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めている。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(2) 研修等の実績  
① 専攻分野における実務に関する研修等  
・2017年5月04日 株式会社ADHIP ダンス指導教員7名参加「OLD SCHOOL NIGHT」  
・2017年8月26日 株式会社ADHIP ダンス指導教員5名参加「JAPAN DANCE DELIGHT」  
内容: 海外ダンサーも多数出場する世界規模の大会。ダンスシーンの現状把握やダンススタイルの研究を行う。  
② 指導力の修得・向上のための研修等  
・2018年3月29日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員75名参加  
内容: 学生とのコミュニケーションスキル研修会

(3) 研修等の計画  
① 専攻分野における実務に関する研修等  
・2018年5月04日 株式会社ADHIP ダンス指導教員5名参加「OLD SCHOOL NIGHT」  
・2018年8月25日 株式会社ADHIP ダンス指導教員4名参加「JAPAN DANCE DELIGHT」  
内容: 海外ダンサーも多数出場する世界規模の大会。ダンスシーンの現状把握やダンススタイルの研究を行う。  
② 指導力の修得・向上のための研修等  
・2019年3月26日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員70名参加  
内容: コーチングスキル教員研修会スキル研修会

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針  
学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校教育活動についてを説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。  
(3) 学校関係者評価結果の活用状況  
学校関係者評価を基に、施設・設備の新規設置や地域連携などの点において、次年度カリキュラム等への反映について審議を始めている。  
「保護者の立場から見て、社会的に適用する勉強として、資格取得に力を入れるべきだと思う」との意見を頂く。ダンサーの職業として、インストラクターのニーズは拡がっており、いくつかの検定等が存在する。求人に関係する資格試験として導入を検討中。今後、取り入れていく方向で動かししていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	平成29年11月20日～平成30年3月31日(4年)	企業等委員
永田 淳義	科学技術学園高等学校 大阪分室長	平成29年11月20日～平成30年3月31日(4年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白電社取締役)	平成29年11月20日～平成30年3月31日(4年)	卒業生
瀧川 紀征	吹田商工会議所 副会頭	平成29年11月20日～平成30年3月31日(4年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
(ホームページ)  
ホームページにおいて公開(URL: <http://www.cat.ac.jp/information/public>)・平成30年10月末

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針  
本校の理念でもある、「業界にとって信頼できる人材育成機関であること」を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。  
(3) 情報提供方法  
ホームページにおいて公開(URL: <http://www.cat.ac.jp/information/public>)

## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 ダンス学科 ストリートダンス専攻) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			音楽業界概論	ダンスに関わる業界の成り立ちからエンタテインメント業界全体におけるダンス・ダンサーの立ち位置や役割、将来に関することを学んでいきます。	1・2年 通年	128	8	○			○				
○			音楽理論	基礎音楽理論と音楽ジャンルや各種楽器への理解を深めます。譜面の読み方・書き方、基礎理論を学習することにより、読譜力や和音や旋律の基礎知識を学習します。	1・2年 通年	128	8	○			○				
○			コンディショニング論	ダンスを踊っていく上で必要となってくる身体に関する知識(筋肉や骨格など身体の構造、健康な身体とケガをしたときの身体の違い等)を学習していきます。	1・2年 通年	64	4		○		○				
○			一般教養	仕事への取り組み姿勢、挨拶や敬語の使い方、電話対応、名刺交換の仕方などのビジネスマナーと共に、履歴書の書き方や面接の受け方など就職活動時に役立つスキルを学習します。	1・2年 通年	64	4	○			○				
○			ストリートジャズ	様々なスタイルのジャズダンスで取り入れられているエクササイズを行い、まずは踊るための身体作りを重点的に行っていきます。	1・2年 通年	384	12			○	○			○	○
○			ブレイキング	トップロック・アップロック(立ち技)からダウンロック(床技)までのブレイキングの基礎を学習します。基礎を固めつつ、そのテクニックを使ってしっかりと音楽を反映させたダンスを踊れるようになること目標とします。	1・2年 通年	256	8			○	○			○	○
○			ヒップホップ	ヒップホップのノリ(リズム)とボディコントロール、ベーシックステップを90年代のものからニュージャックスイング・ミドルスクール・ニュースクールなどスタイル別・年代別に指導します。	1・2年 通年	128	4			○	○			○	○
○			ロッキング	ロッキングの基本となる技の習得がメインとなり、それらを使ったコンビネーション(振付)も行っていきます。、ロッキングの特徴といえるメリハリを表現してけるように心がけていきます。	1・2年 通年	128	4			○	○			○	○
○			ベーシックジャズ	年間を通してアイソレーションやバレエの基本的なエクササイズを使いダンスを踊るための身体作りや、身体の軸をしっかりキープして動く方法を学びます。ボディコントロールとバランス感覚の向上を図ることを目指します。	1・2年 通年	128	4			○	○			○	
○			ステージ実習	作品を作り上げていく過程でチームダンスに必要な全体の構成、フォーメーションとその移動、演出の方法などのノウハウを今後自分たち自身がチームダンスの振付を行っていくために学び取ります。	1・2年 通年	64	2			○	○			○	
○			演奏実技(ホーン、ギター、ドラム、ベース、パーカッション、シンセ、ピアノ)初級、上級アンソング、作曲論、ラップ講座、パソコン講座、英会話	選択必修のうち、2科目を個人の方向性に合わせて選択して受講します。専門分野以外の授業も開講しており、音楽業界の内容を幅広く学ぶことを目的として実施しています。	1・2年 通年	256	8			○	○			○	
<b>合計</b>				<b>12科目</b>				<b>1728単位時間(</b>					<b>66単位)</b>		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。 なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担当者が打ち合わせの上決定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

**(留意事項)**

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。